

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年9月10日（月）

NO. 891号

本号3頁

3000万人署名キックオフから1年 安倍改憲阻止へ 決意新たに！ 「めぞそう3000万人署名」集会開催！

安倍9条改憲阻止に向けた「全国3000万人統一署名」が呼びかけられた「キックオフ集会」から1年。署名を呼びかけた「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」は5日、東京都文京区区民センターで集会を開きました。会場は座れず、立って聞く人など会場いっぱいの400人余が参加しました。参加者は、安倍首相が、秋の臨時国会で改憲案の提出をねらうもとの、改憲を許さない世論をさらに広げるため、力を合わせて署名を集めきる決意を固めました。

主催者を代表して、共同代表の高田健さんがあいさつしました。署名を開始してからの1年を振り返り、市民と野党が協力して改憲発議を許さない運動を進めてきたと述べ、秋の臨時国会に向けて気持ちを新たに「3000万人署名」を達成しようと呼びかけました。



その後、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合の中野晃一さん（上智大学教授）が「安倍9条改憲と臨時国会の課題」と題して講演しました。中野氏は安倍首相の9条改憲について厳しく批判するとともに、「なかなか安倍は辞めず、我々も厳しい状況ではあるが、互いに批判し合うことなく団結を強め、臨時国会に自民党の改憲案を出せない状況をつくって行こう」等と、時には笑いを誘いながら、約45分間、話されました。

全国各地から、経験が報告されました。長野県上田市の大村忠嗣さんは、一人で500人から集めた人など、県内では戸別訪問を中心にした取り組みが各地で進んでいると語り、「まだまだ行けていない所もあります。目標をさらに超えていこうと頑張ります」とのべました。さらに、「大学の門前で学生に呼びかける」として世田谷デモスタの角倉よう子さん、「手紙で広がる平和の思い」として埼玉・教職員9条の会の伊藤稔さん等、5人が報告しました。

さいごに、九条の会事務局長・東大教授の小森陽一氏が「まとめ」として、改めて「3000万人署名を達成しよう」と呼びかけました。

昨年9月にスタートした同署名は、1350万人を超える分（報告集約数では1800万人＝憲法共同センター等の集約）に到達しています。全国市民アクションは今月末に第4次の集約を行い、新たな署名数を報告するとしています。そして、臨時国会開催中に提出する計画です。

第3回南北首脳会談は18日から平壤で

韓国と北朝鮮は、文在寅大統領と金正恩朝鮮労働党委員長の首脳会談を今月18日から平壤で開くことで合意しました。5日文在寅大統領の特使団の代表として北朝鮮を訪問し、金委員長と会談した韓国大統領府の鄭義溶国家安保室長は、6日午前、記者会見を開き、発表しました。

二人の会談は3回目となり、非核化をめぐる難航している米朝協議を後押しする成果を出せるかが焦点となります。これに関して、鄭室長は、5日の会談で金委員長が完全な非核化に向けた意志を再確認し、韓国とはもちろん米国と緊密に協力していくと表明。そして、2021年のトランプ氏

の1期目任期内に「米国との敵対の歴史を清算し、米朝関係を改善しながら、非核化を実現したい」との立場を表明しました。

また、金委員長が「核実験場を永久的に使えなくし、北西部の東倉里にある唯一の長距離弾道ミサイルのエンジン実験施設も閉鎖したにもかかわらず、国際社会の評価が厳しい」という不満を示したことを明らかにしました。そして、金委員長は、北朝鮮がとった措置に関してアメリカのトランプ政権にメッセージを伝達するよう韓国側に求め、また、米朝が同時に行動する原則が守られるならば「もう少し非核化でより積極的な措置をとる用意がある」と表明したということです。

ただ、アメリカが求めている、核施設の申告など、具体的な措置に関しては、どのようなやり取りがあったのか、鄭室長は明らかにしませんでした。

一方、北朝鮮国営の朝鮮中央通信は、金委員長が韓国の特使団との会談で、「朝鮮半島から武力衝突の危険と戦争の恐怖を完全に除去し、核兵器と核の脅威がない平和の地にすることは、われわれの確固たる立場だ」と述べ、非核化の意思に変わりはないと強調したと伝えました。そのうえで、金委員長は、「朝鮮半島の非核化に向けて北と南がより積極的に努力していこう」と呼びかけたということです。米朝協議が難航する中、韓国がアメリカに理解を求めることへの期待を示したものとみられます。



また朝鮮中央通信は、5日の会談の様子を撮影した写真を7枚公開しました。写真には、金委員長と韓国の特使団がテーブルを挟んで座っている様子や、キム委員長が鄭義溶国家安保室長から文大統領の親書を受け取ったり、満面の笑みを浮かべたりしている様子が写っています。

朝鮮半島での完全非核化等を前にすすめるために、私たちは…！

文韓国大統領特使が北朝鮮を訪問し、18日から20日まで平壤で3回目の南北首脳会談を開催することで合意したことは素晴らしいニュースです。我が国の何もできない安倍首相と違い、平壤を訪問し、局面を打開しようとする文大統領の勇気は素晴らしいもので称賛すべきです。また、金委員長が2021年のトランプ氏の1期目任期内に「米国との敵対の歴史を清算し、米朝関係を改善しながら、非核化を実現したい」との立場を表明したことも素晴らしいことです。18日からの首脳会談が大きな成果を上げることに期待するものです。

さて、朝鮮半島での完全非核化、北東アジアでの平和構築を前にすすめるために、私たちが何をやるべきか。それは、3000万人署名を成功させ、安倍9条改憲を阻止することではなんいでしょうか。安倍政権の「北朝鮮の脅威」を口実にした憲法9条改憲など諸政策は、その根拠を失い、日米安保体制の有用性が大きく揺らぐ事態となっています。そのようなもつとも狙う憲法9条改憲を阻止したら、朝鮮半島、北東アジア、そして世界の平和を希求し、核兵器のない世界を求める諸国民を大きく励ますこととなります。その点からもこの秋、3000万人署名を達成しなければなりません。頑張りましょう。

千葉県憲法会議 2018年総会を開催

千葉県憲法会議は9月7日に、自治体福祉センターで2018年総会を開催しました。代表幹事の本原康雄県労連議長は、北海道での震災に触れ、国は莫大な防衛費を減らし、災害支援金を増額するなど支援を強めるべきだと指摘し、さらに「安倍首相は改憲に焦っており、臨時国会が焦点となるが改憲を阻止するたたかいを強めよう」と訴えました。

次に、憲法会議の高橋信一事務局長が情勢報告を行い、その後、田村陽平事務局長が議案を提案しました。田村氏はこの間の2年間のたたかいについて、2017年1月に千葉県市民連合が発足し、13の選挙区全てに地域市民連合が組織され、活動しているが、そのなかで「安倍政権の下での改憲は許さない」が共通のスローガンとして掲げられ、共同の広がりの中で改憲阻止のたたかいが展開されていると報告。さらに、今後、憲法会議として役割を発揮するためにも「多様な形で憲法を学び、語ることを軸として、情勢に相応しい活動を展開することが求められている」として、憲法

学習運動を強めること、さらに2019年5月3日の憲法集会の成功、安倍改憲を阻止するために3000万人署名の目標達成、定例街宣活動の継続、そして組織拡大に努めること等を提起しました。

それを受けて、参加した団体全てから発言がありました。新婦人の会からは、改めて3000万人署名達成に向けて、14日に担当者会議を開催し、意思統一する予定。この間、憲法カフェに取り組み、新婦人新聞の読者の10倍の署名目標を掲げて奮闘してきたが、4割の達成率。目標達成した支部もあり、その教訓を学び合い、達成に向け奮闘したいと決意が語られました。また、憲法カフェに参加している弁護士は、「憲法を見たことも、考えたこともない20代から90代までの人が参加してきている。その中で『非国民とは何ですか』『私も主権者ですか』『どうして3000万何ですか』等と率直な質問が出され、面白い。憲法に関心を持つ人が増えている」と報告しました。

また、民医連からは①核兵器禁止条約など、世界の流れと安倍政権の異常さを実感している。②貧困と格差が広がっており、初診に来た時には手遅れの事例もあり、気軽に医療機関にかかる状況をつくっていくことが必要。③3000万人署名の取り組みでは、組合員には戸別訪問・ピンポンは大きな課題なので、ポスティング作戦を展開、約10000のセットを配布したと報告しました。

さらに、千葉商連、千葉土建、日本共産党千葉県委員会、自由法曹団から、3000万人署名のとりくみ、市民の共同のとりくみ等についての発言がありました。

最後に、高橋勲代表幹事がまとめの発言で、「千葉県憲法会議を結成したメンバーの多くが鬼籍に入ったが、53年間旗を降ろさず、引き続き奮闘していることに喜んでいるのではないか。今、もっとも憲法が厳しい時であるが、一方で9条を中心に憲法が輝いている時ではないか、憲法会議の役割を果たして行こう」と述べ、①3000万人署名を憲法ポスター等の活用で、成功させよう。②「学びながら行動、行動しながら学ぶ」が大切、憲法学習を強めていこう、と訴えました。



各地のとりくみ

新潟 学習交流集会を開催し、渡辺治氏の講演で学び合う

安倍政権の9条改憲をストップさせようと、新潟県憲法センターは1日、新潟市内で学習交流集会を開催し、200人が参加しました。

一橋大学名誉教授の渡辺治氏が「安倍9条改憲の危険性と発議阻止にむけたたたかい」と題して講演。安倍首相が昨年5月3日に言い出した改憲提言は、自民党が従来から主張してきた「9条2項をそのままに自衛隊を明記」する、公明党の「加憲」案であり、安倍首相は公明党と維新の会を味方につけて一気に発議に持ち込もうとしていると指摘しました。

渡辺氏は、海外で戦争するためには軍刑法や軍事法廷が必要になり、国民の権利を制限する緊急事態法制も必要になると指摘しました。そして「9条の改変は憲法全体を変質させてしまう」と強調しました。

朝鮮半島情勢については、南北、米朝の二つの首脳会談によって、安倍首相の言う「北朝鮮の脅威」は根拠を失ったと指摘。日本国民が安倍政権を倒し、改憲を止めることは、韓国国民と一緒にあって、東アジアに平和を築く大きな力になるとして、「私たちにはその責任がある。安倍9条改憲NO！3000万人署名を必ず集めきって、来年の参院選で、市民と野党の共闘で安倍政権を倒そう」と力強く訴えました。

秋葉区9条の会の板橋育夫さんが、秋葉区で平和4団体の共闘を軸に署名を推進している経験を報告しました。

参加した医療機関で働く20代の女性は、「聞きやすかった。署名を頑張りたい」と話していました。